

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 年 月 日

事業所名 くるみの森 西谷

		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			3		児童発達と放デイとの区切りではなく安全に配慮した上で、コミュニケーションが取れるような空間作りをしています。	目で見てわかるような仕切りなどを考えていく。
	2 職員の配置数は適切である		3				
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている			3			完全なバリアフリーになっているわけではない為、段差などに注意換気を促すような印をつけていくと良い。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		3			毎朝各箇所の掃除を、当番制にて行い、清潔空間を維持できるよう努力しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		3			定期的に研修を行いPDCAサイクルの再認識を行っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		3			定期的に評価表を活用し、保護者の意見を聞き早急に改善を行うようにしています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			3			頂いたご意見に対しての改善などには取り組んでいますが、ホームページなどの公表は行っていないので、改善時に都度報告できるような体制を考えていきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			3			上司と話を行い決めていきます。
適切な支援の提供	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		2	1		職員同士のコミュニケーションは密にとっており、なんでも話できる雰囲気作りに努めています。	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している		3			担当者が保護者と連絡をとり定期的に面談を行っています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している		3				
	12 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		1	2			職員全員が周知にはまだ至っていないため、定期的に研修を行い、理解を深めていくと思います。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている		3			定期的に会議を開き、計画書の見直し等を行っています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている		3			毎日の活動内容などは、飽きが来ないように考えたり、新しいものを取り入れています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		3			毎朝、天候等を考慮しミーティングを行い活動を決めています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している		3			本人さんの成長を見ながら、支援の内容の見直しを行い、成長を促しています。	

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		毎朝、ミーティングを行っています。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		3	送迎後、その日の振り返りを行い翌日への改善に努めています。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		毎日個々の記録を職員みんなで記入行っています。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3		職員間でモニタリングを行い、計画書に反映させています。	